



清水小だより

清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

行事が育む学校力

10月26日(土)に無事運動会を実施することができました。競技中に体調を崩す子供も見られず、参加した全員が一杯自分の力を発揮しました。当日、応援いただいた皆さんはもとより、この日まで子供を支えていただいた、ご家庭及び地域の皆さんに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

秋運動会の実施は、平成15年度以来21年ぶりのことです。本年度は、運動会を重点目標「動きだす子」を実現する場と位置付け、3色対抗形式を取り入れたり、応援合戦や6年生によるソーラン節を行ったりしました。昼休みに各色で響く応援練習や、自分の名前を記したはっぴを着て誇らしげ踊る6年生の姿には本当に感動しました。閉会式で赤組優勝が発表されたときの盛り上がりや、悔しい中でも一生懸命拍手したたえ合う青色黄色の子供たちの姿。この閉会式こそ、皆さんに見て欲しいと思いました。一方で10月になっても酷暑が続く現在の気象状況を考えると、練習を重ねて仕上げていくこれまでの競技や演技の指導方法は現実的ではなく、実施方法を一層工夫する必要も感じています。

秋運動会を通して、21年前とは学校を取り巻く環境、教育内容、子供の生活スタイルが大きく変わっていることを実感しました。子供も職員もへとへとになっていることが伝わってきました。秋運動会を見越した、計画的な教育活動の実施に向けて今年度の検証を進めていきます。

ある保護者の方から「どの競技も見応えがあった、昔と違って、用具は少ないけれどこんなに盛り上がると思わなかった。」と感想をいただきました。子供の笑顔と全力を見せること、その環境を整えること、学校が家庭や地域に示す一番の答えではないかと考えています。

運動会後の職員室では「〇〇さんの走りが素晴らしかった。」「心配していた〇〇さんが笑顔で参加できた。」など子供の成長や頑張りをたたえ合う声がしばらく止まりませんでした。職員にとっても、教員としてやりがいや子供の可能性を再確認できる場となりました。

学校行事の実施には、これまでとは比べものにならない課題があり、配慮が必要で見直さなければならぬことも多いですが、子供+職員=学校力を成長させることのできる大切なコンテンツであることは間違いありません。PTAや学校運営協議会などの力を借りつつ、より充実した実施に努めていきます。

最後になりましたが、お疲れの中、テント等の撤収をお手伝いいただいた皆さん、ありがとうございました。

運動会での たくさんの ナイスシーン

PTA 広報部の皆さんが、たくさんの写真を撮影してくれました。子供たちのいい顔です。



当日は大小さまざまなドラマが展開されました。運動会のような学校行事での醍醐味です！

閉会式での「講評」では、まず、サークル隊形にしてお互いの顔が見えるようにし、児童全員で 30 秒間の瞑想をしました。その間に、その日の頑張りや楽しかったことを 1 つ思い出しました。「紹介してくれる人？」と尋ねると、本当にたくさんの子が手をあげ、嬉しくなりました（全校の前で自己開示できるのは立派なことです！）。私（教頭）からは、6 年生のリレーのアンカーが、ゴール直前で転倒してしまい、泣きながら応援席に帰っていった際の同じクラスの仲間たちの態度に感動したことを伝えました。後で聞けば、他のクラス・種目でも同じような姿があったとのこと。清水小の子供たちの心の温かさや寛容さのすばらしさを感じます。

運動会の形も、年々変化しており、集団行動を想起させる入場行進等も多くの学校で無くなり、従来からの「体育的」要素が弱まっていると感じます。オランダの学校では、食べ物をもって広い公園に集まり（運動場がない学校がほとんどです）、自分が出たい種目（といっても、事前の練習等不要な「遊び感覚」で参加できる内容）に参加できる形だと聞いたことがあります。世界的には、この「体を動かすことを楽しむイベント」という形が主流でもあるようです。日本の学校が誇る「UNDOKAI（運動会）」の文化、そのよさも継承しつつも、より時代に合った進化をとげていくのかもしれませんが。清水小の運動会も、常にブラッシュアップしています（K）。